

平成 20 年度における意見公募手続等の施行の状況について

I 行政手続法に基づく意見公募手続等の状況

1 実施件数

平成 20 年度に、①行政手続法第 39 条第 1 項に基づき、命令等制定機関（各府省等）が実施した意見公募手続（以下「意見公募手続」という。）及び②行政手続法第 40 条第 2 項に基づき、命令等制定機関（各府省等）の委員会等が実施した「意見公募手続に準じた手続」（以下、①及び②を併せて「意見公募案件」という。）は、931 件であり、その対象となり実際に公布・決定等が行われた命令等の数は、1,612（政令：126、府省令等：516、告示：697、審査基準等：273）であった。（平成 20 年度中に命令等が公布・決定等されたもの）

(1) 意見公募手続

平成 20 年度に実施された意見公募手続の件数は、表 1 のとおり、930 件であり、その対象となり実際に公布・決定等が行われた命令等の数は、1,611 であった。

表 1 意見公募手続の実施状況

府省等名	案件数	公布・決定等が行われた命令等の数				
		政 令	府省令等	告示	審査基準等	合 計
内閣官房	2	2	2	0	4	8
国家公務員制度改革推進本部	1	0	0	0	2	2
人事院	2	0	3	0	0	3
内閣府	22	8	8	0	9	25
警察庁	19	5	17	2	4	28
金融庁	33	4	52	26	19	101
総務省	79	10	69	132	15	226
法務省	30	9	20	7	2	38
外務省	1	0	1	0	0	1
財務省	22	6	7	3	6	22
文部科学省	31	2	22	12	23	59
厚生労働省	236	34	126	239	32	431
農林水産省	135	5	43	133	20	201
経済産業省	133	19	62	40	85	206
国土交通省	152	17	72	82	50	221
環境省	30	5	11	21	0	37
防衛省	2	0	0	0	2	2
合 計	930	126	515	697	273	1,611

※ 1 回の意見公募手続で複数の命令等の案を対象にすることがあるため、実際に公布・決定等された命令等の数は意見公募手続の案件数より多くなる。

※※ 意見公募手続を実施したが、意見公募後の事情変更により、命令等を公布・決定等しなかった案件が 4 件あった。（農林水産省 1 件及び経済産業省 3 件）

(2) 意見公募手続に準じた手続

平成 20 年度に実施された「意見公募手続に準じた手続」は、総務省の委員会等において 1 件実施されており、1 省令が公布された。

2 意見公募の状況

(1) 意見提出期間

意見提出期間の設定状況をみると、表 2 のとおり、意見公募案件（931 件）中、30 日以上確保しているものが 843 件（90.5%）あり、概ね行政手続法の原則に沿った意見提出の機会が確保されている。

表 2 意見の提出期間の状況

	意見の提出期間						
	14 日 以下	15 日～ 24 日	25 日～ 29 日	30 日	31 日～ 34 日	35 日～ 44 日	45 日 以上
意見公募手続	59	25	4	559	272	9	2
意見公募手続に 準じた手続	0	0	0	0	1	0	0
合計	59	25	4	559	273	9	2

なお、行政手続法第 40 条第 1 項では、30 日以上意見提出期間を定めることができないやむを得ない理由があるときは、30 日を下回る意見提出期間を定めることができることとされている。

意見提出期間が 30 日未満となったもの（88 件）の主な理由は、次のとおりである。

（意見提出期間が 30 日未満となっている主な理由の概要）

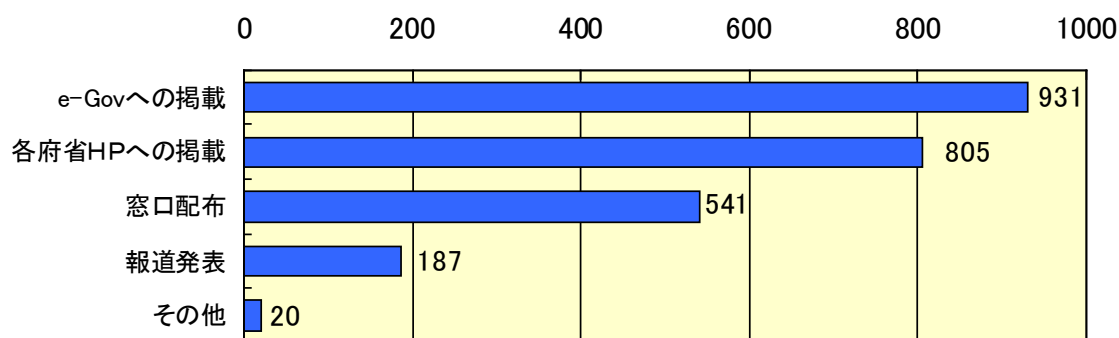
- 命令等の制定の根拠となる法令の公布・決定等から施行までの期間が短く、当該法令の施行に併せて命令等を定めるためには、意見提出期間を短縮する必要があるため。
- 意見公募手続の対象となる命令等が定められたことを受け、地方公共団体等において準備期間を確保する必要があるため。
- 制度を円滑に施行するために、国民等への周知期間を確保する必要があるため。

(2) 意見公募の公示方法

意見公募の公示方法をみると、図 1 のとおり、すべての意見公募案件（931 件）において「e-Gov（電子政府の総合窓口）への掲載」を行っており、これに加えて、「各府省ホームページへの掲載」が 805 件（86.5%）、「窓口配布」が 541 件（58.1%）、「報道発表」が 187 件（20.1%）、「その他」が 20 件（2.1%）であった。（複数該当あり）

また、意見を募集する際に、公示に加えて、利害関係団体等に特別に周知を実施した案件が、60 件（6.4%）あった。

<図1>意見公募の公示方法

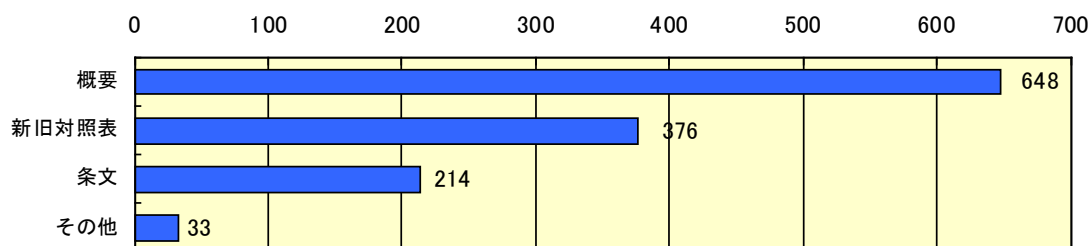


(3) 命令等の案の添付状況等

① 命令等の案の添付状況

意見公募手続において添付することとされている命令等の案（行政手続法第39条第1項）の添付状況をみると、図2のとおり、意見公募案件（931件）中、「概要」を添付したものが648件（69.6%）、「新旧対照表」が376件（40.4%）、「条文」が214件（23.0%）、その他が33件（3.5%）であった。（複数該当あり）

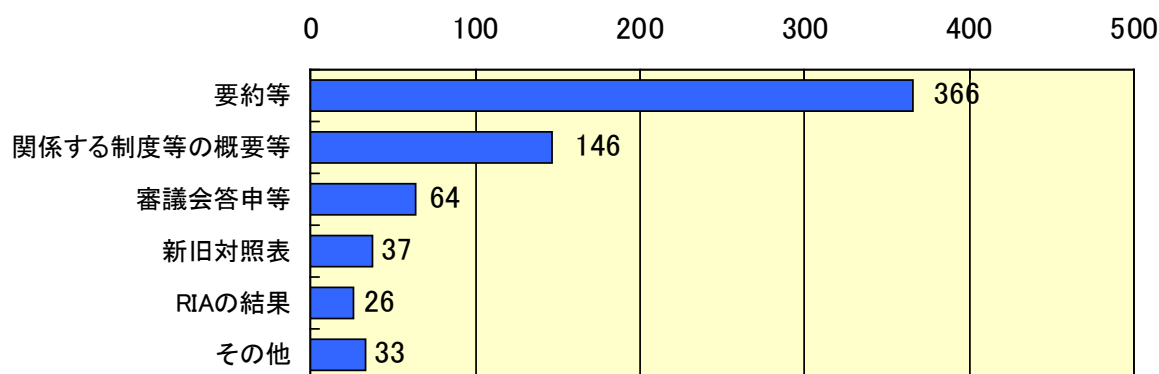
<図2>命令等の案の添付状況



② 関連資料の添付状況

意見公募手続において添付することとされている関連資料（行政手続法第39条第1項）の添付状況をみると、図3のとおり、意見公募案件（931件）中、「行政手続法第六章に定める意見公募手続等の運用について」（平成18年3月20日総管第139号。以下「運用通知」という。）で関連資料の例として示しているもののうち、「命令等を定めようとする趣旨・目的や命令等の案の要約等」を添付したものが366件（39.3%）、「関係する制度や併せて改正される他の制度等の概要、参照条文等」が146件（15.7%）、「立案に際して実施した調査結果、審議会答申等」が64件（6.9%）、「新旧対照表（案として掲載している場合を除く）」が37件（4.0%）、「RIA（規制影響分析）の結果」が26件（2.8%）、その他が33件（3.5%）であった。（複数該当あり）

<図3> 関連資料の添付状況



③ 根拠法令及び根拠条項の記載状況

意見公募手続において命令等の案を公示する際、明示することとされている当該命令等を定める根拠となる法令及びその条項（行政手続法第39条第2項）の記載状況をみると、意見公募案件（931件）中、その両方について明示されているものは812件（87.2%）であった。

④ 意見公募要領の添付状況

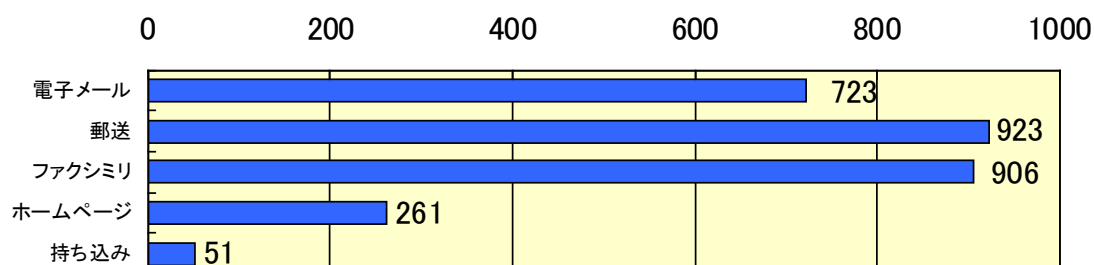
運用通知において意見公募時に併せて公示することとされている意見公募要領の添付状況をみると、意見公募案件（931件）中、同要領を添付しているものは919件（98.7%）であった。

3 意見の提出状況

(1) 意見の提出方法

命令等制定機関が設定した意見の提出方法をみると、図4のとおり、意見公募案件（931件）中、「電子メール」が723件（77.7%）、「郵送」が923件（99.1%）、「ファクシミリ」が906件（97.3%）、「ホームページの意見提出フォーム等」が261件（28.0%）、「担当課等への持ち込み」が51件（5.5%）であり、大半の案件において複数の手段が併せて用意されている。（複数該当あり）

<図4> 意見の提出方法の状況



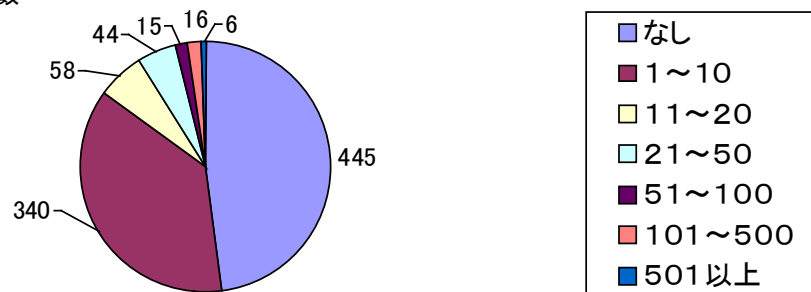
(2) 提出された意見数

提出された意見数をみると、図5のとおり、意見公募案件（931件）中、「なし」が445件（47.8%）、「1～10」が340件（36.5%）、「11～20」が58件（6.2%）、

「21～50」が44件(4.7%)、「51～100」が15件(1.6%)、「101～500」が16件(1.7%)、「501以上」が6件(0.6%)となっており、過半数の案件において、何らかの意見の提出があった。(関連する複数の案件に係る意見をまとめてカウントしているものがあるため、案件数の合計(931件)とは一致しない)

なお、提出された意見の総数は22,190、1案件当たりの提出意見数は約24であった。

<図5> 提出された意見数



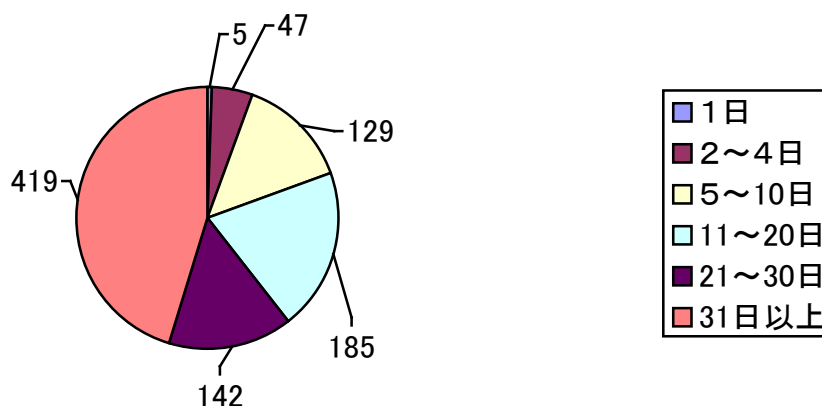
4 提出意見の考慮状況

(1) 意見提出期間終了から命令等の公布・決定等までの期間(意見考慮期間)

行政手続法第42条では、命令等制定機関は、意見公募手続を実施して命令等を定める場合には、意見を十分に考慮しなければならないとされている。

意見考慮期間(意見提出期間終了から命令等の公布・決定等までの期間)をみると、図6のとおり、意見公募案件のうち平成20年度中に命令等が公布・決定等された案件(927件)中、「1日」が5件(0.5%)、「2～4日」が47件(5.1%)、「5～10日」が129件(13.9%)、「11～20日」が185件(20.0%)、「21～30日」が142件(15.3%)、「31日以上」が419件(45.2%)となっている。

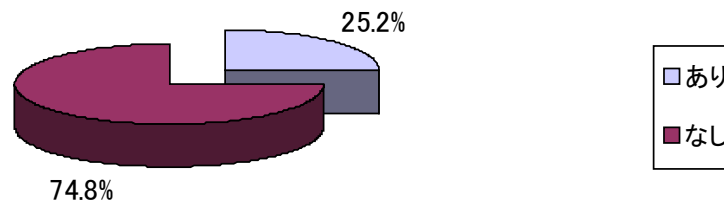
<図6> 意見考慮期間



(2) 提出意見の反映状況

提出された意見を考慮した結果、命令等の案の修正を行うなど、提出意見が反映されたものは122件あり、図7のとおり、平成20年度中に命令等を公布・決定等した案件のうち実際に意見提出があった485件の25.2%を占めている。

<図7> 提出意見の反映の有無



5 結果の公示状況

平成 20 年度に行われた意見公募案件（931 件）中、平成 20 年度中に結果の公示が行われた案件は、891 件（95.7%）であり、このうち、実際に命令等が公布・決定等された案件は、887 件であった。

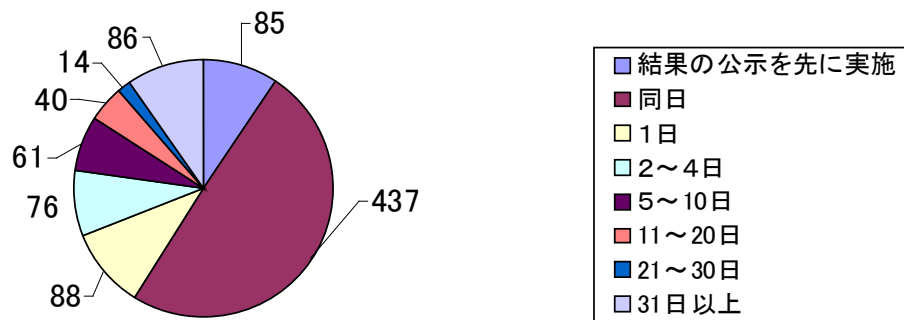
(1) 命令等の公布・決定等から結果の公示までの期間

行政手続法第 43 条第 1 項では、命令等制定機関は、意見公募手続を実施して命令等を定めた場合には、当該命令等の公布と同時期に結果を公示しなければならないとされている。

命令等の公布・決定等から結果の公示までの期間をみると、図 8 のとおり、平成 20 年度中に結果公示が行われた案件のうち、実際に命令等が公布・決定等された案件（887 件）中、「結果の公示を先に実施」が 85 件（9.6%）、「同日」が 437 件（49.3%）、「1 日」が 88 件（9.9%）、「2～4 日」が 76 件（8.6%）、「5～10 日」が 61 件（6.9%）、「11～20 日」が 40 件（4.5%）、「21～30 日」が 14 件（1.6%）、「31 日以上」が 86 件（9.7%）となっている。

なお、平成 21 年 3 月 31 日現在、結果の公示が行われていない案件は 40 件（命令等が公布・決定等された案件（927 件）の 4.3%）であった。

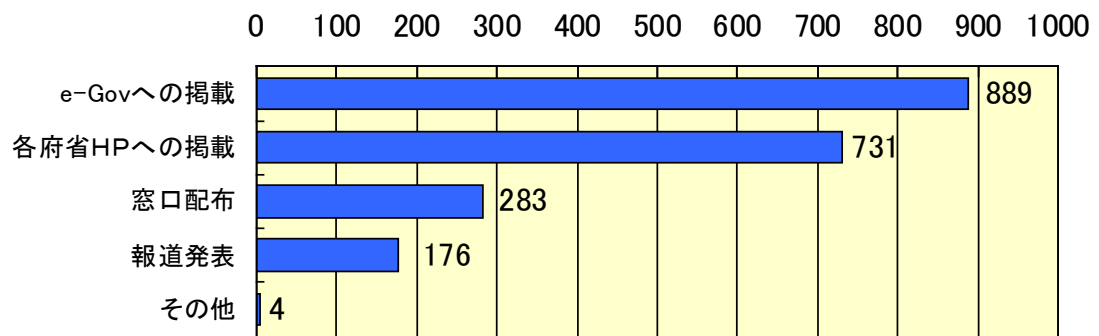
<図8> 公布日等から結果の公示日までの日数



(2) 結果の公示方法

結果の公示方法をみると、図 9 のとおり、意見公募案件のうち平成 20 年度中に結果が公示されたもの（891 件）のうち、889 件（99.8%）は「e-Gov への掲載」が行われている。また、この他に「各府省ホームページへの掲載」が 731 件（82.0%）、「窓口配布」が 283 件（31.8%）、「報道発表」が 176 件（19.8%）、「その他」が 4 件（0.4%）となっている。（複数該当あり）

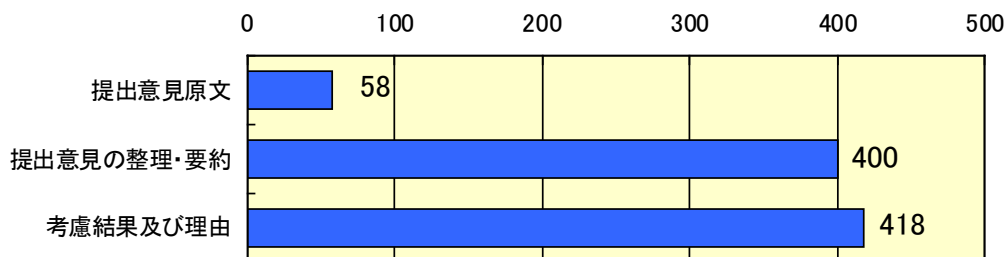
<図9> 結果の公示方法



(3) 提出意見の公示状況

e-Gov での提出意見の公示状況を見ると、図 10 のとおり、e-Gov に平成 20 年度中に結果が公示された案件のうち実際に意見提出があった案件（470 件）中、「提出された意見（原文）」が 58 件（12.4%）、「提出された意見を整理・要約したもの」が 400 件（85.3%）、「提出意見を考慮した結果及びその理由」が 418 件（89.1%）となっている。（複数該当あり）

<図10> 提出意見の公示状況



Ⅱ 行政手続法第 39 条第 4 項各号に該当する命令等の状況

1 件数

(1) 公布・決定等が行われた命令等の数

平成 20 年度に、行政手続法第 39 条第 4 項各号に該当するため、意見公募手続を実施せずに公布・決定等が行われた命令等の数は、表 3 のとおり、571 であった。

表 3 行政手続法第 39 条第 4 項各号に該当する命令等数

府省等名	公布・決定等が行われた命令等の数				
	政 令	府省令	告示	審査基準等	合 計
内閣官房	2	0	0	0	2
人事院	0	3	0	0	3
内閣府	2	4	1	1	8
警察庁	2	3	1	1	7
金融庁	6	36	25	13	80
総務省	6	28	16	10	60
法務省	1	9	0	0	10
外務省	2	11	0	1	14
財務省	32	56	10	29	127
文部科学省	3	12	9	1	25
厚生労働省	18	40	91	2	151
農林水産省	0	20	20	0	40
経済産業省	3	9	16	3	31
国土交通省	0	4	1	4	9
防衛省	1	2	0	1	4
合 計	78	237	190	66	571

(2) 行政手続法第 39 条第 4 項各号への該当状況

第 39 条第 4 項各号の該当状況をみると、表 4 のとおり、平成 20 年度に意見公募手続を実施せずに公布・決定等が行われた案件（462 件※）中、第 8 号に該当する案件が 212 件（45.9%）となっており、約半数の案件が、用語の整理や条項の移動など、法令の整合性を確保するために必要となる形式的改廃であった。（複数該当あり）

※ 第 43 条第 5 項では、命令等制定機関は、第 39 条第 4 項各号のいずれかに該当することにより意見公募手続を実施しないで命令等を定めた場合には、当該命令等の公布・決定等と同時期に当該命令等の趣旨・意見公募手続を実施しなかった理由等を公示しなければならないとされている。

平成 20 年度中に趣旨等の公示が行われた命令等（571）に関しては、複数の命令等についてまとめて公示を行うものがあるため、公示案件の数は 403 件となる。また、同日までに公示が行われていない命令等（59）に関しては、一つの命令等を一つの案件として計算している。

表4 行政手続法第39条第4項各号の該当状況

行政手続法第39条第4項の各号		件数
第1号	公益上、緊急に命令等を定める必要があるため、意見公募手続を実施することが困難であるとき	84
第2号	納付すべき金銭について定める法律の制定又は改正により必要となる当該金銭の額の算定の基礎となるべき金額及び率並びに算定方法についての命令等その他当該法律の施行に関し必要な事項を定める命令等を定めようとするとき	123
第3号	予算の定めるところにより金銭の給付決定を行うために必要となる当該金銭の額の算定の基礎となるべき金額及び率並びに算定方法その他の事項を定める命令等を定めようとするとき	40
第4号	法律の規定により、委員会等の議を経て定めることとされている命令等であって、相反する利害を有する者の間の利害の調整を目的として、法律又は政令の規定により、これらの者及び公益をそれぞれ代表する委員をもって組織される委員会等において審議を行うこととされているものとして政令で定める命令等を定めようとするとき	7
第5号	他の行政機関が意見公募手続を実施して定めた命令等と実質的に同一の命令等を定めようとするとき	13
第6号	法律の規定に基づき法令の規定の適用又は準用について必要な技術的読替えを定める命令等を定めようとするとき	6
第7号	命令等を定める根拠となる法令の規定の削除に伴い当然必要とされる当該命令等の廃止をしようとするとき	13
第8号	他の法令の制定又は改廃に伴い当然必要とされる規定の整理その他の意見公募手続を実施することを要しない軽微な変更として政令で定めるものを内容とする命令等を定めようとするとき	212

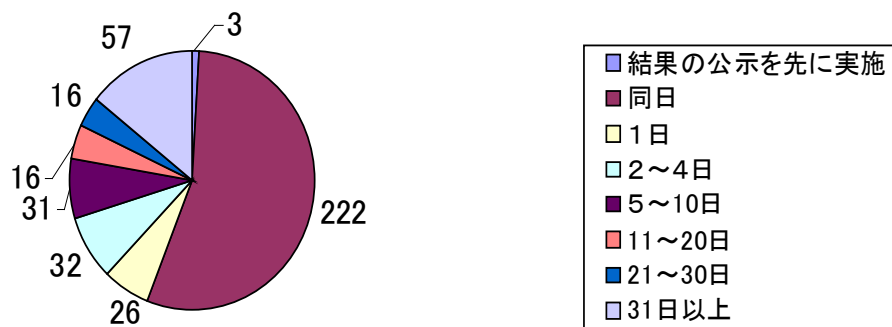
2 結果の公示状況

(1) 命令等の公布・決定等から趣旨等の公示までの期間

命令等の公布・決定等から結果の公示（趣旨等の公示）までの期間をみると、図11のとおり、命令等が公布・決定等された案件のうち平成20年度中に趣旨等を公示したもの（403件）中、「結果の公示を先に実施」が3件（0.7%）、「同日」が222件（55.1%）、「1日」が26件（6.5%）、「2～4日」が32件（7.9%）、「5～10日」が31件（7.7%）、「11～20日」が16件（4.0%）、「21～30日」が16件（4.0%）、「31日以上」が57件（14.1%）となっている。

なお、平成20年度末現在、趣旨等を公示していない命令等の数は、59（（案件の）12.8%）であった。

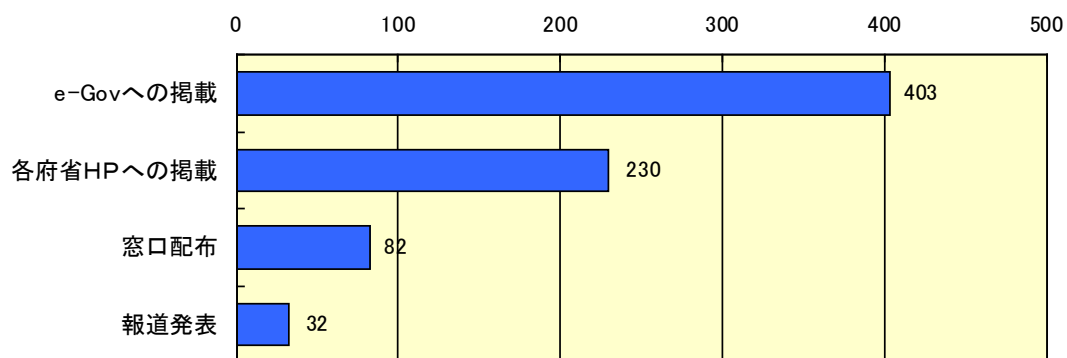
<図11> 公布日等から趣旨等の公示日までの日数



(2) 趣旨等の公示方法

趣旨等の公示方法をみると、図 12 のとおり、平成 20 年度中に趣旨等を公示したすべての案件（403 件）において「e-Gov への掲載」を行っており、これに加えて、「各府省ホームページへの掲載」を行っているものが 230 件（57.1%）、「窓口配布」が 82 件（20.3%）、「報道発表」が 32 件（7.9%）であった。（複数該当あり）

<図12> 結果の公示方法



Ⅲ 行政手続法の適用除外となる命令等の状況

平成 20 年度に、①行政手続法第 3 条第 2 項又は②同法第 4 条第 4 項に該当するため、意見公募手続を実施せずに公布・決定等された命令等は、329 であり、その内訳は、①に該当するものが 110（各号の該当状況は表 5 のとおり）、②に該当するものが 224（各号の該当状況は表 6 のとおり）であった。（複数該当あり）

表 5 行政手続法第 3 条第 2 項各号の該当状況

行政手続法第 3 条第 2 項の各号		命令等数
第 1 号	法律の施行期日について定める政令	15
第 2 号	恩赦に関する命令	0
第 3 号	命令又は規則を定める行為が処分に関する場合における当該命令又は規則	14
第 4 号	法律の規定に基づき施設、区間、地域その他これらに類するものを指定する命令又は規則	13
第 5 号	公務員の給与、勤務時間その他の勤務条件について定める命令等	68

表 6 行政手続法第 4 条第 4 項各号の該当状況

行政手続法第 4 条第 4 項の各号		命令等数
第 1 号	国又は地方公共団体の機関の設置、所掌事務の範囲その他の組織について定める命令等	140
第 2 号	皇室典範第 26 条の皇統譜について定める命令等	0
第 3 号	公務員の礼式、服制、研修、教育訓練、表彰及び報償並びに公務員の間における競争試験について定める命令等	9
第 4 号	国又は地方公共団体の予算、決算及び会計について定める命令等並びに国又は地方公共団体の財産及び物品の管理について定める命令等	26
第 5 号	会計検査について定める命令等	2
第 6 号	国の機関相互間の関係について定める命令等並びに地方自治法第 2 編第 11 章に規定する国と普通地方公共団体との関係及び普通地方公共団体相互間の関係その他国と地方公共団体との関係及び地方公共団体相互間の関係について定める命令等	28
第 7 号	行政手続法第 4 条第 2 項各号に規定する法人の役員及び職員、業務の範囲、財務及び会計その他の組織、運営及び管理について定める命令等	27

IV 任意の意見募集の状況

1 実施件数

平成 20 年度に、行政手続法において意見公募手続等が義務付けられていない事項について、各府省等が意見公募手続等に準じて、任意に意見募集を行った案件（以下「意見募集案件」という。）は、表 7 のとおり、513 件であった。（平成 20 年度末までに意見募集期間が終了したもの）

表 7 任意の意見募集の状況

府省等名	案 件 数	府省等名	案 件 数
内閣官房等	18	財務省	13
内閣府	139	文部科学省	21
公正取引委員会	1	厚生労働省	65
警察庁	5	農林水産省	36
金融庁	7	経済産業省	59
総務省	86	国土交通省	25
法務省	5	環境省	28
外務省	5	合計	513

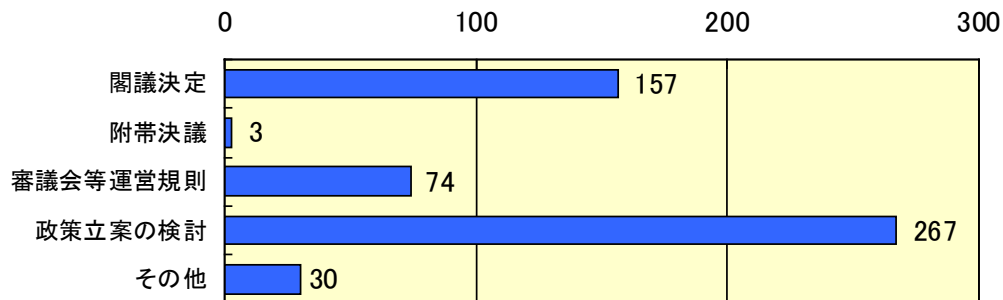
※ 内閣官房等には、高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部、知的財産戦略本部及び郵政民営化推進本部（郵政民営化委員会）の案件を含む。

2 意見募集の状況

(1) 意見募集を行った理由

平成 20 年度に、各府省等が任意で意見募集を行った理由をみると、図 13 のとおり、意見募集案件（513 件）中、「当該政策に係る閣議決定で意見募集を行うこと等とされているため」が 157 件（30.6%）、「当該政策に係る法律の国会の附帯決議において意見募集を行うこと等とされているため」が 3 件（0.6%）、「審議会や研究会等の運営規則等に基づき、答申等の案について、意見を募集し参考とするため」が 74 件（14.4%）、「前述の理由に該当しないものの任意で当該政策の立案の検討に資するため」が 267 件（52.0%）、その他が 30 件（5.8%）であった。（複数該当あり）

<図13>意見募集の実施理由



(2) 意見募集期間

意見の募集期間の設定状況を見ると、表8のとおり、意見募集案件（513件）中、意見募集期間を30日以上確保しているものが361件（70.4%）あり、行政手続法の規定に準じて実施されているものが多い。

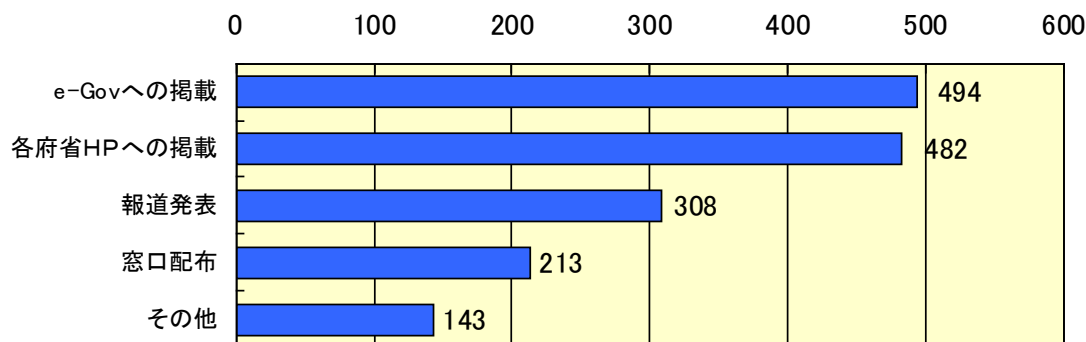
表8 意見の募集期間の状況

14日以下	15日～ 24日	25日～ 29日	30日	31日～ 34日	35日～ 44日	45日以上
60	75	17	234	93	18	16

(3) 意見募集の公表方法

意見募集の公表方法をみると、図14のとおり、意見募集案件（513件）中、「e-Govへの掲載」が494件（96.3%）、「各府省ホームページへの掲載」が482件（94.0%）、「報道発表」が308件（60.0%）、「窓口配布」が213件（41.5%）、その他が143件（27.9%）であった。（複数該当あり）

<図14>意見募集の公表方法

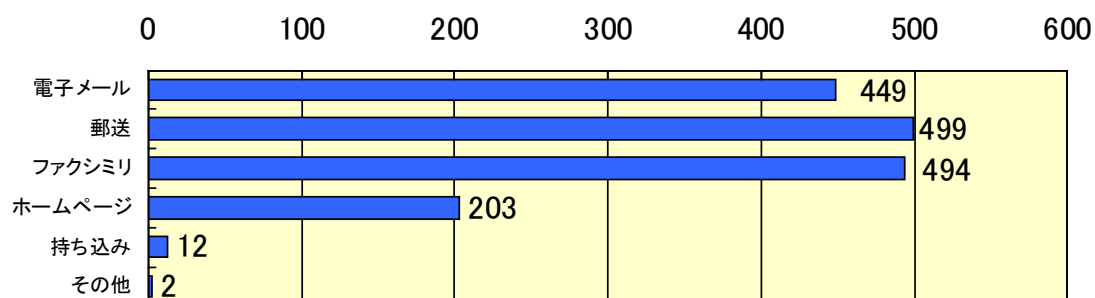


3 意見の提出状況

(1) 提出方法

各府省等が設定した意見の提出方法をみると、図15のとおり、意見募集案件（513件）中、「電子メール」が449件（87.5%）、「郵送」が499件（97.3%）、「ファクシミリ」が494件（96.3%）、「ホームページの意見提出フォーム等」が203件（39.6%）、「担当課等への持ち込み」が12件（2.3%）、「その他」が2件（0.4%）であった。（複数該当あり）

<図15>意見の提出方法の状況

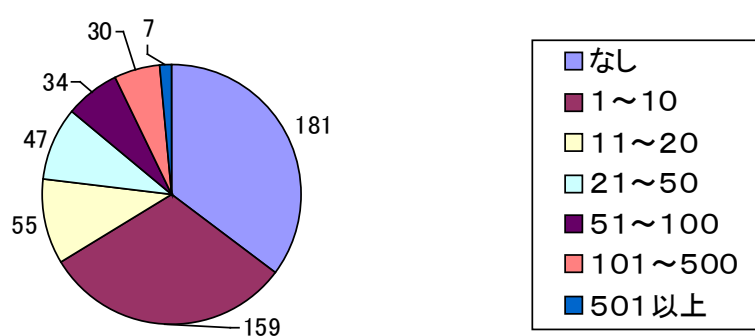


(2) 提出された意見数

提出された意見数をみると、図 16 のとおり、意見募集案件（513 件）中、「なし」が 181 件（35.3%）、「1～10」が 159 件（31.0%）、「11～20」が 55 件（10.7%）、「21～50」が 47 件（9.2%）、「51～100」が 34 件（6.6%）、「101～500」が 30 件（5.8%）、「501 以上」が 7 件（1.4%）となっており、6 割以上の案件において、何らかの意見の提出があった。

なお、提出された意見の総数は 17,632、1 案件当たりの意見提出数は約 34 であった。

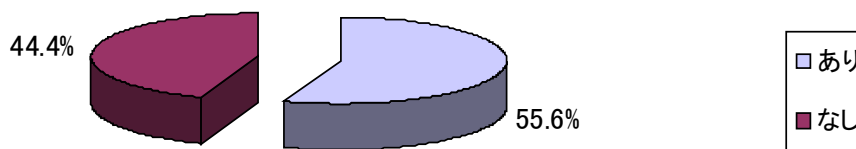
<図16> 提出された意見数



4 意見の反映状況

提出された意見を考慮した結果、当初の案の修正を行うなど、提出意見が反映された案件は 144 件であり、図 17 のとおり、平成 20 年度中に内容が決定された案件のうち、実際に意見提出があった 259 件の 55.6%を占めている。

<図17> 提出意見の反映の有無



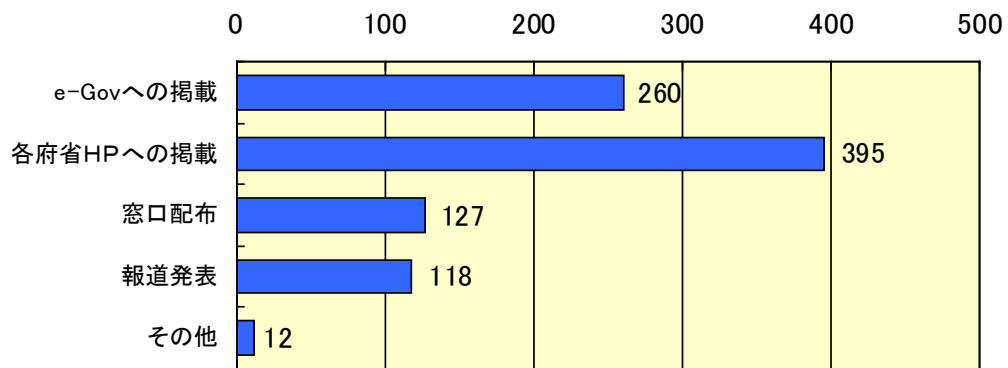
5 結果の公表状況

(1) 結果の公表及び公表方法

平成 20 年度中に結果の公表が行われた案件は、意見募集案件（513 件）中、419 件（81.7%）であった。

また、結果の公表方法をみると、図 18 のとおり、意見募集案件のうち平成 20 年度中に結果が公表されたもの（419 件）中、「e-Gov への掲載」が 260 件（62.1%）、「各府省ホームページへの掲載」が 395 件（94.3%）、「窓口配布」が 127 件（30.3%）、「報道発表」が 118 件（28.2%）、「その他」が 12 件（2.9%）であった。（複数該当あり）

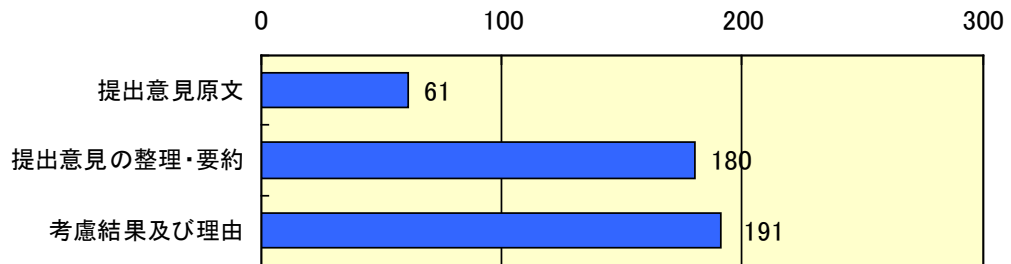
<図18> 結果の公表方法



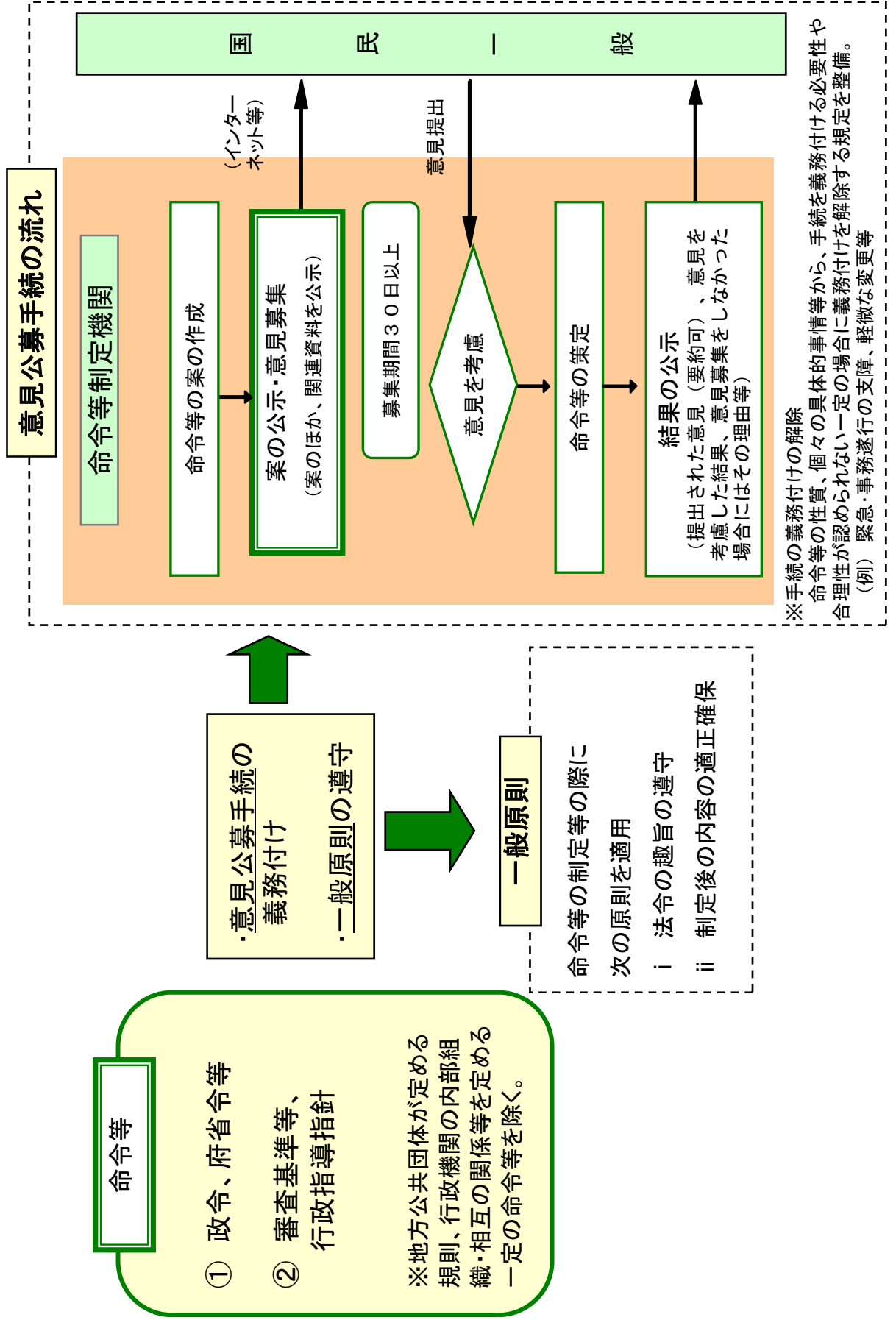
(2) 提出意見の公表状況

e-Gov での提出意見の公表状況を見ると、図 19 のとおり、e-Gov に平成 20 年度中に結果が公表された案件のうち実際に意見提出があった案件（206 件）中、「提出された意見（原文）」が 61 件（29.6%）、「提出された意見を整理したもの」が 180 件（87.4%）、「提出意見を考慮した結果及びその理由」が 191 件（92.7%）であった（複数該当あり）

<図19> 提出意見の公表状況



意見公募手続(いわゆるパブリックコメント手続)等の概要



○行政手続法（平成 5 年法律第 88 号）（抄）

（定義）

第二条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一～七 （略）

八 命令等 内閣又は行政機関が定める次に掲げるものをいう。

イ 法律に基づく命令（処分の要件を定める告示を含む。次条第二項において単に「命令」という。）又は規則

ロ 審査基準（申請により求められた許認可等をするかどうかをその法令の定めに従って判断するために必要とされる基準をいう。以下同じ。）

ハ 処分基準（不利益処分をするかどうか又はどのような不利益処分とするかについてその法令の定めに従って判断するために必要とされる基準をいう。以下同じ。）

ニ 行政指導指針（同一の行政目的を実現するため一定の条件に該当する複数の者に対し行政指導をしようとするときにこれらの行政指導に共通してその内容となるべき事項をいう。以下同じ。）

（命令等を定める場合の一般原則）

第三十八条 命令等を定める機関（閣議の決定により命令等が定められる場合にあつては、当該命令等の立案をする各大臣。以下「命令等制定機関」という。）は、命令等を定めるに当たっては、当該命令等がこれを定める根拠となる法令の趣旨に適合するものとなるようにしなければならない。

2 命令等制定機関は、命令等を定めた後においても、当該命令等の規定の実施状況、社会経済情勢の変化等を勘案し、必要に応じ、当該命令等の内容について検討を加え、その適正を確保するよう努めなければならない。

（意見公募手続）

第三十九条 命令等制定機関は、命令等を定めようとする場合には、当該命令等の案（命令等で定めようとする内容を示すものをいう。以下同じ。）及びこれに関連する資料をあらかじめ公示し、意見（情報を含む。以下同じ。）の提出先及び意見の提出のための期間（以下「意見提出期間」という。）を定めて広く一般の意見を求めなければならない。

2 前項の規定により公示する命令等の案は、具体的かつ明確な内容のものであって、かつ、当該命令等の題名及び当該命令等を定める根拠となる法令の条項が明示されたものでなければならない。

3 第一項の規定により定める意見提出期間は、同項の公示の日から起算して三十日以上でなければならない。

4 次の各号のいずれかに該当するときは、第一項の規定は、適用しない。

一 公益上、緊急に命令等を定める必要があるため、第一項の規定による手続（以下「意見公募手続」という。）を実施することが困難であるとき。

二 納付すべき金銭について定める法律の制定又は改正により必要となる当該金銭の額の算定の基礎となるべき金額及び率並びに算定方法についての命令等その他当該法律の施行に関し必要な事項を定める命令等を定めようとするとき。

- 三 予算の定めるところにより金銭の給付決定を行うために必要となる当該金銭の額の算定の基礎となるべき金額及び率並びに算定方法その他の事項を定める命令等を定めようとするとき。
- 四 法律の規定により、内閣府設置法第四十九条第一項若しくは第二項若しくは国家行政組織法第三条第二項に規定する委員会又は内閣府設置法第三十七条若しくは第五十四条若しくは国家行政組織法第八条に規定する機関（以下「委員会等」という。）の議を経て定めることとされている命令等であつて、相反する利害を有する者の間の利害の調整を目的として、法律又は政令の規定により、これらの者及び公益をそれぞれ代表する委員をもって組織される委員会等において審議を行うこととされているものとして政令で定める命令等を定めようとするとき。
- 五 他の行政機関が意見公募手続を実施して定めた命令等と実質的に同一の命令等を定めようとするとき。
- 六 法律の規定に基づき法令の規定の適用又は準用について必要な技術的読替えを定める命令等を定めようとするとき。
- 七 命令等を定める根拠となる法令の規定の削除に伴い当然必要とされる当該命令等の廃止をしようとするとき。
- 八 他の法令の制定又は改廃に伴い当然必要とされる規定の整理その他の意見公募手続を実施することを要しない軽微な変更として政令で定めるものを内容とする命令等を定めようとするとき。

（意見公募手続の特例）

- 第四十条 命令等制定機関は、命令等を定めようとする場合において、三十日以上の見
見提出期間を定めることができないやむを得ない理由があるときは、前条第三項の規
定にかかわらず、三十日を下回る意見提出期間を定めることができる。この場合にお
いては、当該命令等の案の公示の際その理由を明らかにしなければならない。
- 2 命令等制定機関は、委員会等の議を経て命令等を定めようとする場合（前条第四項
第四号に該当する場合を除く。）において、当該委員会等が意見公募手続に準じた手
続を実施したときは、同条第一項の規定にかかわらず、自ら意見公募手続を実施す
ることを要しない。

（意見公募手続の周知等）

- 第四十一条 命令等制定機関は、意見公募手続を実施して命令等を定めるに当たっては、
必要に応じ、当該意見公募手続の実施について周知するよう努めるとともに、当該意
見公募手続の実施に関連する情報の提供に努めるものとする。

（提出意見の考慮）

- 第四十二条 命令等制定機関は、意見公募手続を実施して命令等を定める場合には、意
見提出期間内に当該命令等制定機関に対し提出された当該命令等の案についての意
見（以下「提出意見」という。）を十分に考慮しなければならない。

（結果の公示等）

- 第四十三条 命令等制定機関は、意見公募手続を実施して命令等を定めた場合には、当
該命令等の公布（公布をしないものにあつては、公にする行為。第五項において同じ。）
と同時期に、次に掲げる事項を公示しなければならない。

- 一 命令等の題名
 - 二 命令等の案の公示の日
 - 三 提出意見（提出意見がなかった場合にあっては、その旨）
 - 四 提出意見を考慮した結果（意見公募手続を実施した命令等の案と定めた命令等との差異を含む。）及びその理由
- 2 命令等制定機関は、前項の規定にかかわらず、必要に応じ、同項第三号の提出意見に代えて、当該提出意見を整理又は要約したものを公示することができる。この場合においては、当該公示の後遅滞なく、当該提出意見を当該命令等制定機関の事務所における備付けその他の適当な方法により公にしなければならない。
 - 3 命令等制定機関は、前二項の規定により提出意見を公示し又は公にすることにより第三者の利益を害するおそれがあるとき、その他正当な理由があるときは、当該提出意見の全部又は一部を除くことができる。
 - 4 命令等制定機関は、意見公募手続を実施したにもかかわらず命令等を定めないこととした場合には、その旨（別の命令等の案について改めて意見公募手続を実施しようとする場合にあっては、その旨を含む。）並びに第一項第一号及び第二号に掲げる事項を速やかに公示しなければならない。
 - 5 命令等制定機関は、第三十九条第四項各号のいずれかに該当することにより意見公募手続を実施しないで命令等を定めた場合には、当該命令等の公布と同時期に、次に掲げる事項を公示しなければならない。ただし、第一号に掲げる事項のうち命令等の趣旨については、同項第一号から第四号までのいずれかに該当することにより意見公募手続を実施しなかった場合において、当該命令等自体から明らかでないときに限る。
 - 一 命令等の題名及び趣旨
 - 二 意見公募手続を実施しなかった旨及びその理由

（準用）

第四十四条 第四十二条の規定は第四十条第二項に該当することにより命令等制定機関が自ら意見公募手続を実施しないで命令等を定める場合について、前条第一項から第三項までの規定は第四十条第二項に該当することにより命令等制定機関が自ら意見公募手続を実施しないで命令等を定めた場合について、前条第四項の規定は第四十条第二項に該当することにより命令等制定機関が自ら意見公募手続を実施しないで命令等を定めないこととした場合について準用する。この場合において、第四十二条中「当該命令等制定機関」とあるのは「委員会等」と、前条第一項第二号中「命令等の案の公示の日」とあるのは「委員会等が命令等の案について公示に準じた手続を実施した日」と、同項第四号中「意見公募手続を実施した」とあるのは「委員会等が意見公募手続に準じた手続を実施した」と読み替えるものとする。

（公示の方法）

第四十五条 第三十九条第一項並びに第四十三条第一項（前条において読み替えて準用する場合を含む。）、第四項（前条において準用する場合を含む。）及び第五項の規定による公示は、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法により行うものとする。

- 2 前項の公示に関し必要な事項は、総務大臣が定める。